

S J N (小規模自治体ネットワーク) 人材育成 P J 活動報告書



派遣先：
島根県海士町
派遣期間：
2024年10月7日～10月11日

教育委員会
建設課
健康子育て課
町民課

町田 一生
久古 武
黒澤 洋介
原島 達也

海士町役場

S J N（小規模自治体ネットワーク）人材育成P Jの目的

★目的★

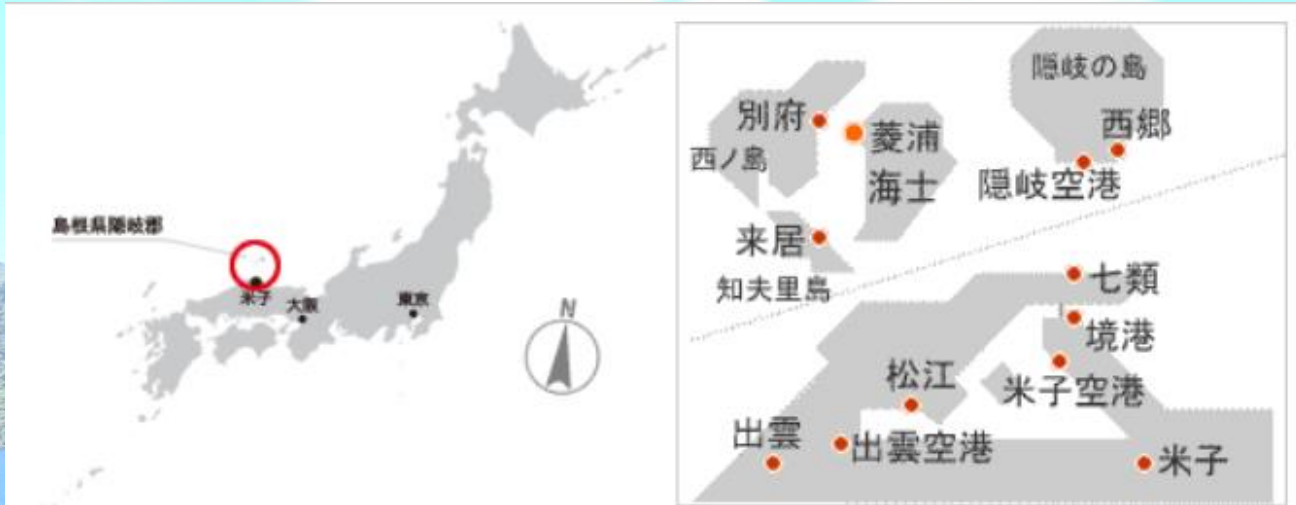
横瀬町と、福島県磐梯町と、島根県海士町の三者は、各自治体の強みを最大限に生かした相互連携により未来をつくる新たな自治体運営に挑戦するために、2024年1月15日「三町未来共創協定」を締結しました。

互いの先進事例をはじめ、各種施策の取組を共有することにより、地域課題の解決を図るとともに、職員間の交流を推進する。

★活動内容★

- ①公共施設等の把握、行政課題の調査（情報交換含む）
- ②DX推進取組状況ほか海士町の先進事例、各種施策の取組調査（情報交換含む）
- ③横瀬町職員テレワーク実施要領（令和3年訓令第1号）に基づく「モバイルワーク」の実証 など

海士町の概要



日本海の島根半島沖合約60Kmに浮かぶ隠岐諸島の中の一つ中ノ島を「海士町」といい1島1町の小さな島。

(面積33.46 k m²、周囲89.1km)

対馬暖流の影響を受けた豊かな海と、名水百選（天川の水）に選ばれた豊富な湧水に恵まれ、自給自足のできる半農半漁の島。

人口：2, 236名

世帯：1, 300

※令和6年9月末現在

海士町の概要



島生まれ、島育ち、幻の黒毛和牛「隠岐牛」

島の豊かな自然の中でのびのびと育った隠岐牛は美味しいと評判です。



海士町のキャッチコピー「ないものはない」

海士町では都会のようにモノが豊富ではなく、コンビニや商業施設はありません。しかし、自然や郷土の恵は潤沢で、暮らすために必要なモノは十分あり、今あるモノの良さをうまく活かして生活しています。

海士町の事業 (大人の島留学プロジェクト)

★大人の島留学制度★

概要：隠岐島前3町村（海士町・西ノ島・知夫村）で、
仕事や普段の暮らしに挑戦できる1年間の就労型お試し移住制度。



★島体験★

概要：隠岐島前3町村（海士町・西ノ島・知夫村）で、仕事や普段の暮らしを
通して、島を知ることができる3ヶ月の滞在型インターンシップ制度

★お試し島留学★

「#離島にもっと若者の還流を」の取り組みの一環である「大人の島留学／島
体験」というお試し移住制度の事前来島プログラム。

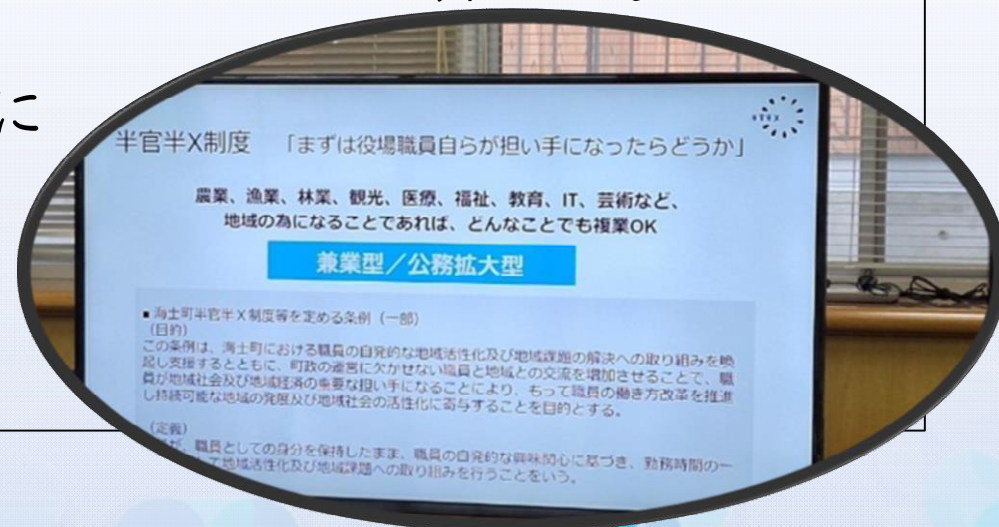
海士町の事業（半官半X）

★概要★

○海士町役場発祥の新しい概念。『官』として役場の業務に従事するだけではなく、『X』として自分の「好き」や「得意」を地域に還元する働き方。

○従来の役場の働き方は、事務作業やデスクワークが中心となっており、役場の外へ繰り出す機会が非常に少なく、また、役場のシステム上、課同士の業務の連携も制限されてしまい、大きすぎる課題へのアプローチが難しい。

○「地域の担い手不足」という最も大きな課題に直面した際に、「職員自身が地域の担い手になればいい！」と発想のもと、令和3年に始まった制度。



海士町の事業（新庁舎設立）

★概要★

令和7年度より本格運用される予定の海士町役場新庁舎。

1階に、未来共創スペース「しゃばりば」、2階に役場機能を集約。

※「しゃばりば」…ひっばっていくという意味の「しゃばる」と、おしゃべりする場「しゃべりば」を掛け合わせた言葉。

しゃばりばで島内民・島外民がかかわらず様々な人が利用し、交流することで新しいアイデアや、知識や技術の共有が行われ、海士町をより良くしていく場所として建設。

新庁舎



★今後の予定★

令和6年11月23日 竣工式

令和6年12月～3月 プレオープン

令和7年4月～ 本格運用開始

視察報告【町田①】

派遣先：共育課

▶ 海士町共育課

- ▶ 課長 濱中香理
- ▶ 学校教育係／地域共育係
- ▶ 伝承郷育係／給食センター
- ▶ 中央図書館
- ▶ 総員 約28名



視察報告【町田②】

隠岐島前高校教育魅力化P J

生徒数の減少により、入学者数21名以下が3年続くと統廃合の危機。

高校がなくなると、3島、中ノ島（海士町）、西ノ島、知夫里島の生徒のみならず家族の転出となり島民全体の人口減少となり島全体の危機感が醸成された。

現状分析、対策を行い「産業振興」「よそもの留学」「教育」の三本柱を決定。

魅力化コーディネーター（地域おこし協力隊）の校内設置

愛される「グローバル人材」の育成

島留学により、人の環流地域活動の活性化

隠岐学習センター（町単独の公立塾）

寮の増設（町単独）



視察報告【町田③】

隠岐島前高校教育魅力化P J 2

現在は、親子島留学（2泊3日）、親子面談の実施により目的意識の高い生徒が集まり不登校、中退等はほとんどなく、島の生徒との相乗効果により入試倍率の向上（2.7倍）大学進学を含めた多様な進路の増加となり軌道にのっている。

今後の課題は、人の環流により 島内生徒：島外生徒＝1：2
のバランスを取りながら卒業生が帰りやすい施策の実施

大人の島留学やアンバサダー制度など大人との協働を模索している。



視察報告【町田④】

社会教育

「地域教育」を大切にし、特別なことではなく、あるものを磨き上げていく。

☆子どもがキラリ：こどもダッシュ村などアドベンチャーキャンプ（5泊6日）外、素朴な事業がほとんどだが、毎月実施している。

小・中学生の通学合宿の実施。

☆大人もキラリ：本気の焼き物教室、二十歳の集い、社会教育委員による「飛行機を知ろう・遊ぼう」（元管制官）

☆みんなでキラリ：ふるさと再発見ツアー、綱引き大会、ソフトボール大会
産業文化祭、親子島留学、島まるごと図書館 島内28ヶ所の
地域分館（県内1人あたりの貸出数第1位）、本の宅配便



視察報告【町田⑤】

- ▶ まとめ
- ▶ 横瀬町の10年後の姿が海士町にあった。
- ▶ 地域住民と島留学生など島外との人の環流、融合が図れ高齢化が進んでいる町で活気を感じた。
- ▶ 業務の中にも島留学生（地域おこし協力隊）が一担当として活躍している。
- ▶ 関わった方々の「目」がキラキラしていたのが印象的だった。
- ▶ 役場も地域住民も合う人々が、嘘偽りのない暖かさで向かい入れてくれてとても居心地の良い島だった。
- ▶ 最後は、船で見送られ久々の感動を味わった
- ▶ 島に戻ってくる人々の気持ちが少しわかった気がします。
- ▶ 10年の差をどれだけ縮められるかが勝負。



視察報告【久古①】

派遣先：環境整備課

環境整備課

上下水道係・・・上下水に関すること

(簡易水道・下水道・浄化槽・公営企業会計)

土木総務一般に関すること

環境整備係・・・町道維持・整備に関すること

漁港・港湾に関すること

道路等修繕に関すること

水産係・・・水産振興に関すること

正職員 5 名、会計年度任用職員 1 名、技術員 1 名

道路工夫 4 名（技能員 2 名、作業員 2 名）



視察報告【久古②】

上水道事業について

浄水方式・・地下水を利用した急速ろ過方式（※除鉄・除マンガン）

特 徴・・維持管理に手間がかからない浄水方式であるため、職員の業務負担及びランニングコストの面において非常にメリットがある。

浄水場・・5箇所 ※沈殿地・ろ過池等がないためコンパクト

配水池・・6箇所

料金体系・・基本料金1,310円（税込）※一部例外あり

使用水量 8 m³を超え1m³につき270円(税込)

※基本料金に8m³までの使用水量が含まれている。

供用開始・・昭和27年12月1日

法適用・・令和5年4月1日



視察報告【久古③】

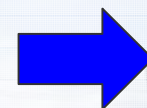
上水道施設の状況



取水（水源）



海士浄水場



中央配水池



各家庭へ配水



清浄な地下水



自家発電設備

視察報告【久古④】

下水道事業について

事業区分・・・特定環境保全公共下水道事業、漁業集落排水事業、
特定地域生活排水処理施設（浄化槽事業）の3事業により運営

処理人口・・・特定環境保全公共下水道事業・・・約1,350人

漁業集落排水事業・・・約400人

特定地域生活排水処理施設（浄化槽事業）・・・約380人

維持管理・・・3事業とも同一の島内業者へ維持管理業務を委託

料金体系・・・3事業とも人数割りによる料金体系となっている。

基本料金 1戸当たり1,780円(税込)

5人まで1人当たり840円(税込)、6人目以降無料

加入金・・・3事業とも一律30,000円

法適用・・・令和6年4月1日



視察報告【久古⑤】

海士浄化センター—特定環境保全公共下水道事業—

建物構造・・・RC造り 地下1階、地上2階

敷地面積・・・2,480㎡

建物面積・・・552.96㎡

延床面積・・・967.44㎡

処理方式・・・嫌気・好気性ろ床法

特 徴・・・嫌気槽の処理により汚泥発生量が少ない

排除方式・・・分流式

供用開始・・・平成14年3月

脱水塔・・・平成17年増設 汚泥共同処理の実施

※脱水後の汚泥は清掃センターで焼却処分

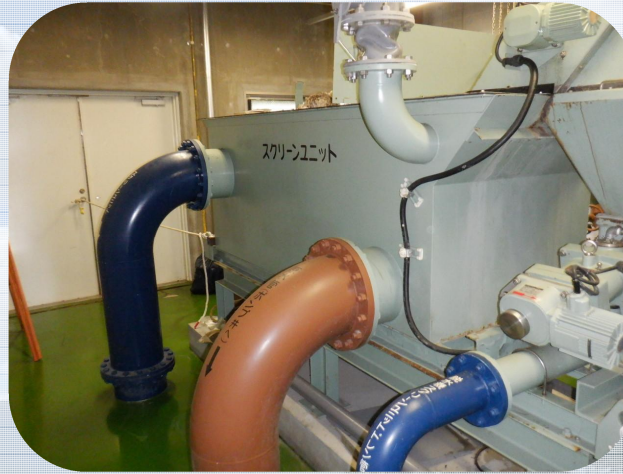


視察報告【久古⑥】

下水道施設の状況



海士浄化センター



スクリーンユニット



嫌気槽上部



集中監視版



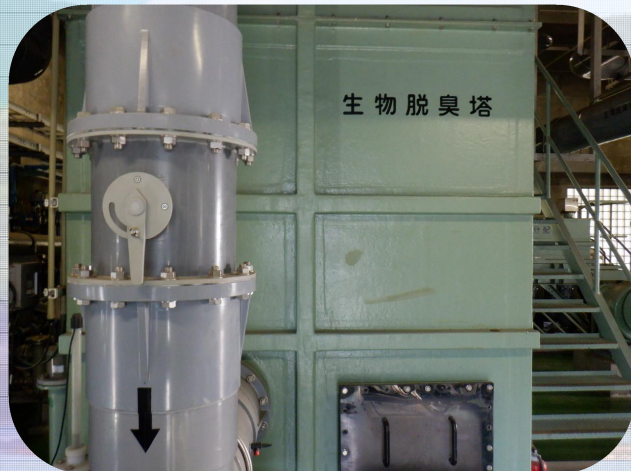
第一分配槽



嫌気槽内部

視察報告【久古⑦】

下水道施設の状況



生物脱臭塔



薬品溶解槽



配管機械室



活性炭吸着塔



汚泥脱水機



豊田浄化センター(漁集)

視察報告【黒澤①】

派遣先：健康福祉課

海士町の児童福祉関連施設 －こどもの居場所関係－

●けいしょう保育園

社会福祉法人 慶照学園が運営している公設民営の保育園

平成18年に、町内2園あった保育所が1つに統合された。

（現在は町内に、私立保育所 1 園、私立認可外保育施設 1 園 計 2 園）

定員は60名、現在56名在園（R6.10月現在）

活動例

【特別支援事業】 病後児保育、延長保育、土曜保育、一時保育。

【地域の伝統芸能普及事業】 園児に神楽を教える活動を行っている。

【食育推進事業】 豊かな食体験を通して様々な食育実践を行っている。

例）裏庭に畑があり、作物を給食で食べたりする。



視察報告【黒澤②】

海士町の児童福祉関連施設 －こどもの居場所関係－

●子育て支援センター つぼみ

けいしょう保育園内に併設。
ママたちの交流の場となっており、待機児童の親も利用する。
一日の利用人数は、おおよそ1～3組くらい。
町が法人（慶照学園）に委託して運営している。

開放日

毎週月曜日～金曜日 9時～16時30分

土曜日 9時～12時

活動例

育児相談・乳幼児相談、育児講座、ボランティア育成事業
中・高・大学生保育体験 など



視察報告【黒澤③】

海士町の児童福祉関連施設 －こどもの居場所関係－

●放課後児童クラブ あまっこ

けいしょう保育園内に併設。

保護者が就労等により昼間家庭にいない児童に対し、適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全育成を図る。町が法人（慶照学園）に委託して運営している。

開設時間

学校開校日 月曜日～金曜日 放課後～午後6時30分

土曜日 午前8時～午後6時30分 ※ 原則として、両親共に勤務の場合に限る

学校休校日（春休み・夏休み・冬休み・臨時休校日）午前8時～午後6時30分

30～40人ほどの小学生が利用する。この保育園のOB小学生が多い

- ・海士小学校から20分くらい歩いて通う。
- ・児童は「ただいまー」と言って入ってくる。
- ・宿題などをして過ごす。



視察報告【黒澤④】

海士町の児童福祉関連施設 －こどもの居場所関係－

●あまマーレ

閉園した保育所をリニューアルして開設したコミュニティスペース。
2009年にあまマーレが生まれ、2014年からは施設にスタッフが常駐し、誰もが気軽に立ち寄れる場所となった。
レトロな雰囲気、横瀬町のあしがくぼ笑楽校に似ている。

施設内について

- 【子ども部屋】 子どもも大人も遊べる遊べる部屋。
- 【勉強部屋】 仕事や打合せにも使える。
- 【古道具やさん】 町内で使われなくなった食器や家具などの販売。
※その他、遊戯室、自由室、和室、調理室がある。

その他各種イベント開催

ものづくりワークショップから、音楽やアートイベント、フリマ（まるどマーケット）が行われている。



視察報告【黒澤⑤】

海士町の児童福祉関連施設 －こどもの居場所関係－

●キッズルーム 温たまたまクラブ (海士町保健福祉センター ひまわり内)

親子で館内の遊具や絵本、楽器などで遊ぶことのできるフリースペース

開館日時：金～日 9時00分～17時00分

利用料金：無料

保健福祉センターひまわりは、平成8年に竣工した大型福祉施設で、福祉関連団体の事務局および福祉関連施設が多数併設されている。

福祉関連団体事務局

海士町社会福祉協議会事務局、保健センター、デイサービスセンター、在宅介護支援センター、ボランティアセンター、共同募金会海士町分会

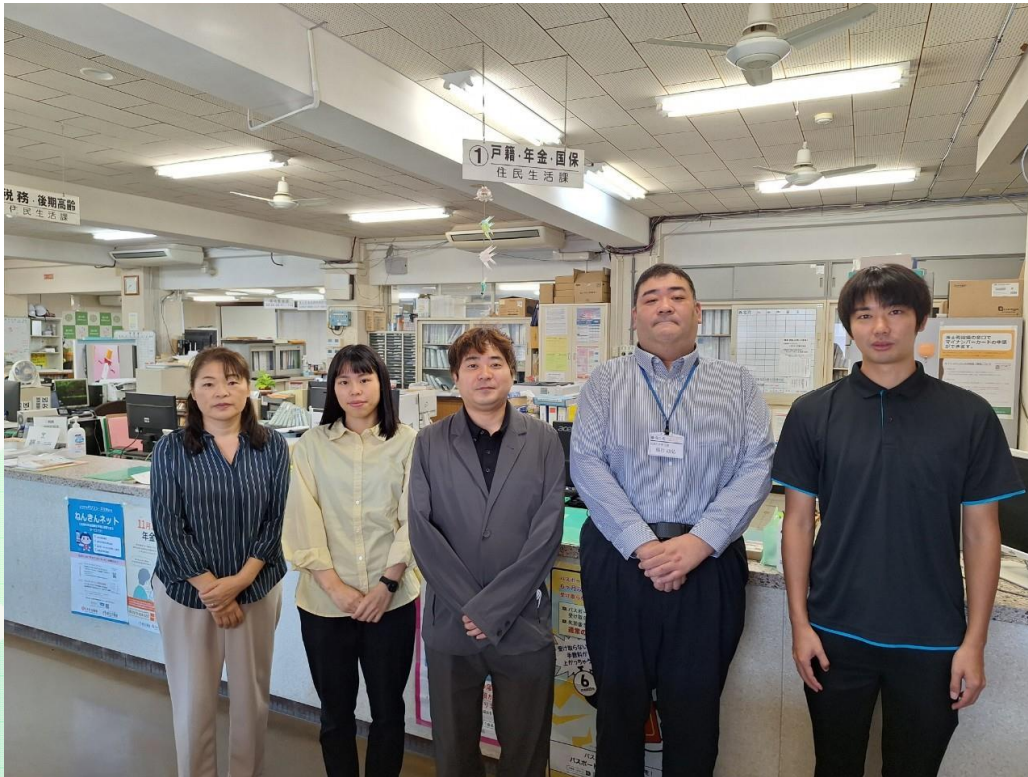
その他、福祉関連施設

デイサービスセンター（通所介護）、生活支援ハウス、健康増進プール・サウナ、承久の湯（日帰り入浴施設）、高齢者住宅、島まるごと図書館 など



視察報告【原島①】

派遣先：住民生活課



住民生活課

業 務：住民基本台帳、戸籍の届出、
マイナンバーに関すること
国民健康保険、後期高齢者医療保険、
税に関すること全般

職員数：5名（正職員のみ）

視察報告【原島②】



海士町斎場

海士町には、葬儀屋がないため、町が斎場を運営・管理。

元々は斎場のみしかなかったが、葬儀はご家庭で行っていたが、高齢者世帯の増加、空き家の増加により、葬儀に対し不安に思う方が年々増加していたこともあり、令和5年度に斎場西側に葬儀を執り行える葬祭ホールを増築。

令和6年5月から利用を開始している。



視察報告【原島③】



海士町国民健康保険 海士診療所

- 島唯一の医療機関
- 標榜科：
 - 内科・小児科・精神科
 - 眼科・整形外科
- スタッフ
 - 医師 2 名（その他非常勤 6 名）
 - 看護師 10 名
 - 臨床検査技師 1 名
 - 理学療法士 1 名
 - 作業療法士 2 名
 - 言語聴覚士 1 名
 - 事務職員 7 名
 - その他 6 名
 - 合計 30 名
 - （島内出身者 15 名、島外出身者 15 名）

視察報告【原島④】



健康相談・お茶会

海士町には区が14地区あり、2ヶ月に1回程度職員が地区を回り、地元の公民館等で健康相談を行っている。
また、健康相談と併せて、スマホの相談、本の貸し出し、住民との語り合いを行い、地域住民同士のつながりを大切にしている。

視察報告【原島⑤】



健康相談の様子



地区の公民館

全体まとめ

海士町を訪れ、職員間の交流を行うことで、メールやオンライン会議よりも意思疎通が図れ、コミュニケーションを深めることができました。
また、現地を直接見ることの大切さを実感しました。

官民連携プラットフォーム「よこらぼ」による関係人口の創出、地域おこし協力隊による地域活性化など、当町が推進している施策の結果、これから横瀬町がどう変わっていくのか、海士町を訪れることで未来の横瀬町の姿を垣間見ることができました。

今回の派遣を快く受け入れていただいた、海士町の大江町長はじめ、職員の皆さまに深く感謝申し上げます。

派遣者一同